

## 「道の日記念 東海道大磯宿 市民交流シンポジウム」

(開催日:2010年8月10日)

2002年から「道の日」の記念行事として、午前中のウォークに続いて午後はシンポジウムを開催してきました。シンポジウムでは、宿場に因んだ講演と当会及び地元ガイド協会の活動などの紹介を行ってきました。2002年の川崎宿を皮切りに、小田原・藤沢・平塚・戸塚・箱根・神奈川、昨年は保土ヶ谷宿と順次開催し、今年は神奈川9宿の締めくくりとして大磯宿で開催されました。

本年度のシンポジウムは、川崎・砂子の里資料館館長斉藤文夫氏による「浮世絵から学ぶ大磯宿」、元平塚博物館館長土井浩氏の「大磯宿の町並みと宿場に暮らす人々」の講演と大磯ガイドボランティア協会と当会の活動報告が行われました。

会場は、大磯駅前の聖ステパノ学園「海に見えるホール」で、約180名の参加者で開催されました。



神奈川県歩け歩け協会高坂理事長挨拶



国土交通省横浜国道事務所末廣係長挨拶



東海道宿駅会議理事石井氏挨拶



**8月10日は「道の日」**

国土交通省は、昭和61年度に8月10日を「道の日」と制定しました。



砂子の里資料館館長齊藤文夫氏の講演。  
浮世絵は、ご自身の所蔵品です。



浮世絵は場内を回覧し、間近に見る事が出来ました。



元平塚博物館館長土井浩氏の講演は、  
大磯宿の町並みとその生活でした。



会場はほぼ満席...熱心に聴講する参加者で熱  
気に溢れていました。



当会藤森会長による活動報告。



大磯ガイドボランティア協会宮代会長による活  
動報告。



舞台の背面のカーテンを開けると、  
そこには相模湾の大海原が...



季節ごとに変わる風景が楽しめる、素晴らしい  
ホールです。



シンポジウム終了後は、全員で掃除です。